

分かる と 快感!

# Z会ナビ

算数

理科

▶ 歴史

地理

お題

## 江戸時代のお寺の重要な役割とは?

(岡山大学 2002年 日本史)

江戸時代の寺院の主な機能の一つに「寺請制度」がある。寺請制度とはどのような制度か、説明しなさい。

要は「寺請制度とはどのような制度か」ということが聞かれています。まずは寺請制度のあらましから確認していきましょう。

寺請制度とは、江戸時代に、すべての家を仏教のいずれかの寺院の信徒の家（檀家といえます）とした制度のことです。江戸幕府は、仏教以外の宗教が広がることを恐れていました。その宗教の信者を取り締まるために、必ず仏教徒にならなくてはならないという制度を作ったのです。「ある宗教」とは何か、わかりますか？

### キリスト教の禁止と寺院の関係

正解は、キリスト教です。16世紀（戦国時代のころ）に日本に伝わったキリスト教は、大名の保護を受けて広まっていきました。大名たちは、キリスト教を布教するヨーロッパ人がもたらす海外のめずらしい品々を手に入れるため、キリスト教を保護してヨーロッパ人と交易をしたかったのです。しかし、キリスト教が民衆にも広がるにつれ、問題が出てきました。キリスト教の教えでは、どんな人間よりも神が上に立つことになっています。それは、大名の上に立つ存在を認めることになるので、民衆の上に立ち、民衆を支配したい大名たちにとっては都合が悪かったのです。



イラスト・瑞木匠

## 江戸時代のお寺の役割

江戸時代の初めには、キリスト教は禁止し、ヨーロッパ人との交易は続ける、という方針がとられました。しかし、キリスト教とヨーロッパ人との間には深いつながりがあるので、キリスト教の禁止は徹底されないままでした。

そのような中で、九州でキリスト教徒による反乱（島原・天草一揆）が起きました。民衆の抵抗は強く、幕府が軍を送ってようやく鎮圧できたというほどでした。これがきっかけとなって、幕府は外国との交易を厳しく制限する「鎖

国」を行い、キリスト教徒も厳しく取り締まることにしました。この取り締まりに利用されたのが、寺請制度だったのです。

### もう一つの重要な役割

寺請制度には、キリスト教の取り締まり以外にもう一つ重要な役割がありました。寺院は檀家の一人一人がキリスト教徒でないことを証明するため、書類を作る必要がありました。江戸時代には現代のように戸籍や住民票はありませんので、この寺院が作る書類が、民衆の身分証明書（身元保証書）の役割を果たすようになり、人々の結婚、旅行、出生などは寺院で管理されるようになったのです。

このように、現代であれば国や市町村の役所がやるような仕事を、江戸時代には幕府ではなく寺院が担うことになりました。寺院から見れば、布教をせざるも信徒が増えるうれしい制度でもあったのですが、その分、宗教活動がおろそかになったとして、明治時代には批判の対象となりました。 【Z会・河原井彩】

#### ！今回の教訓

江戸時代の寺院には、キリスト教徒の取り締まりという宗教的な役割と、住民管理という行政的な役割がありました。



河原井彩さん 2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を担当。趣味は乗り物に乗ること。将来は猫と2人暮らし（希望）。新潟県生まれの埼玉県育ち。